

# Rotary



Weekly Bulletin Vol.69 No.25 2024-2025 RI会長 ステファニー A. アーチック 泉大津ロータリークラブ(創立1956.5.4)

## 週報 第3276回

会長 渡辺 万寿 副会長 瀧谷 達  
幹事 根尾 玲子 SAA 中田 広宣

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津  
TEL 0725-20-1121  
例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30



泉大津ロータリークラブ

Izumitsu Rotary Club

事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F  
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501  
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org  
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



### 今週の例会(2025年1月31日) 第3276回

#### ■ プログラム

新年特別卓話 泉大津市長 南出 賢一 様

#### ■ 次週のプログラム

2月7日: クラブフォーラム  
西端 政博 国際奉仕部門担当理事

#### ■ 今後の予定

・2月14日: 特別卓話  
大阪府議会議員 大橋 一功 様

#### ■ 祝 誕生日

松村 泰英(4日)

#### ■ 今月のロータリーソング

それこそロータリー

#### 今月の歌

##### たき火

垣根の垣根の 曲がり角  
たき火だたき火だ 落ち葉たき  
あたろうか あたろうよ  
北風ぴいふう 吹いている

#### ■ 先週の例会



#### 会長の時間 渡辺 万寿 会長

##### 岸壁の母

「母は来ました 今日も来た この岸壁に 今日来た  
…」

昭和29年(1954)、演歌「岸壁の母」が大ヒットした。

悲しくも哀れな母の姿を伝えるNHKラジオを聴いた作詞家・藤田まさとが、心を打たれて一気に書き上げたという。その母とは、舞鶴港の岸壁で、息子の帰りを待ち続ける、端野(はしの)いせさんであった。

太平洋戦争の敗色が濃くなっていた昭和19年(1944)11月、東京都大田区の端野いせさんの一人息子・新二さんは、

「学徒も動員している。内地にいてはどの方面に行くか分

からない。兵隊なら満州の方が安全だ。心配せずに、行かせてください」

と言って、旧満州（現在の中国東北部）へ渡った。19歳であった。

翌年8月15日、日本は敗戦を迎えた。同時に、海外に残っている軍人、民間人合わせて600万人以上の、日本への引き揚げが始まった。

日本海に面した舞鶴港には、引揚船が入港するたびに、わが子や夫の帰りを待ちわびる家族が全国から押し寄せていた。

端野さんは、息子からの連絡が途絶えたままだった。引揚船の名簿にも名前がない。しかし、「もしかしたら…」の思い一つで、入港するたびに東京から舞鶴へ通っていた。岸壁で、息子の名前を呼び続け、誰もいなくなるまで立ちつくす姿は、見る者の涙を誘った。

端野さんの手記には、子を思う母心が、次のようにつづられている。

「終戦直後は、近くの品川駅へ探しに出ました。引揚船の話聞いてからは、舞鶴へ行き探さなくてはと、とるものもとあえずかけつけました。1、2度は旅費もなんとかありました。生活費にもこと欠きましたが、行かなくては、心が落ちつきません。今度こそ帰るだろうと、信じて、一刻も早く顔を見たい思いで、着物をお金にかけて、舞鶴へ通いました。こうして何度行ったことか。そのつど帰還せず、消息さえわからず、打ちひしがれて帰りますが、またふらふらと身を起して、ホームにたち、また列車で舞鶴へ着きますと、不思議に元気がでます」

「かならず帰ると思い、好物のケーキを土産に、息子が帰ったときのことを空想してでかけました。

引揚者の上陸する棧橋はたいへんな出迎え人です。私は病人のなかからでもと思って前列に並び、歩ける病人にも新二の名を呼びかけました。担架の病人もひとりひとり見ましたが、おりません。

今度は元気な人の上陸です。列のなかに入るように呼びかけ、たずねましたが、むなしく、上陸も終わりました。

だれも耳をかたむけてくれません。知る人もなく、涙が出ます。（中略）

1月も末の、寒い日でしたが、なんとも思わず、夢中になって朝から立ち通し、手に持った弁当もケーキもそのままです。空腹も忘れていたのです。力なく帰る車中の人となりました」

「今日か明日かと待つうちに、むなしく3度目の正月を迎えました。年の明け暮れも、案じるばかりで心は落ち着きません。ソ連より同じ部隊の人が帰ってきましたのでたずねましたが、知る人もなく、このようなことをくり返すばか

りです。生きてると信じて待つのですが、せめてどこにいるのか知りたいのです。

春になり、花見時がまいりましても、そのような心にならず、星の夜は、眠れぬままに夜中に外へ出て、遠く空を見上げて、新二はどこでこの星を見ているだろうか、どんな夢を見ているだろうか。夢でよいから母に答えてくれ。お金があっても行かれず、羽根があるならと思います。母の思いを伝えてくれと、夜空に向かってひとりごとです。床に入りましても眠れぬうちに夜が明けてしまいます。

秋の雨が降り続きますと、どこで雨をしのいでいるのかと風雨にも案じられ、冬になりますと、なおさらです。きびしい寒さに、異国の地でどのようにしのいでいるのかと思いますと、私は布団のなかで休むのも気がひけて、ときには夜更けまで起きております」

「新二、なぜこのように泣かせるのだ。あきらめようとは思いますが、生命をかけて育てた子です。傷ついて倒れたのではないがゆえに私は待つのです。生きてると信ずるのです」（端野いせ著『岸壁の母』）

昭和29年9月、厚生省から、新二さんの死亡認定理由書が届いた。「『お母さんによろしく』と言いついて倒れたのを目撃した」という戦友の証言まで添えられていた。さらに昭和31年9月には、東京都知事から、死亡告知書が届く。それでも、母は、わが子が生きてると信じた。戦地から帰った人に次々と手紙を出したり、テレビに出演したりして、何とか息子の消息を知りたいと訴え続けたのである。

平成12年（2000）8月、ついに、新二さんが中国で生存していることが明らかになった。シベリア抑留（よくりゅう）経験者の人たちが、戦友の消息確認を行っている際に、上海で出会ったという。

母が信じたとおり、息子は、確かに生きていたのだ。

だが、それは、母が亡くなってから19年後のことだった。端野いせさんは、昭和56年（1981）7月に、81歳でこの世を去っている。

新二さんは、ソ連との戦闘で負傷し、シベリアに抑留された。その後、どうやって生きてきたのか、多くは語らなかったという。

死んでもおかしくない極限状態の中で、とにかく生きてくれたことを、いちばん喜んでいるのは、母のはずである。遠く日本から、無事を念じ続けた母親の思いが、海を超えて子供の命を守ったとしか思えない。

## 幹事報告

根尾 玲子 幹事

- 来週1月31日(金)は、新年特別卓話 泉大津市長 南出賢一様の卓話の時間となっております。
- 2月7日(金)は第1金曜日になりますので、理事役員会を開催したいと思っておりますので、関係者の方はよろしくお願い致します。

## 委員会報告

- 本日例会終了後、みやびの間にて第7回親睦活動委員会を開催致しますので、親睦委員、担当の方はよろしくお願い致します。

(細川 嘉則 親睦活動委員長)

- 来週例会終了後、くすの木の間にて委員会を行います。メンバーの方、よろしくお願い致します。

(山本 博章 職業奉仕委員長)

- 本日例会終了後に、第3回社会奉仕委員会を開催致しますので、案内のあった方は3階までお願い致します。又、本日から受付の所に、2月13日(木)献血の名簿を置かせて頂きましたので、ご協力頂ける方は1時間でも結構ですので、名前の記入をして頂けるよう、よろしくお願い致します。

(櫻井 善章 社会奉仕委員長)

## ■ ビジター

なし

## ■ 出席報告 会員数43名 出席免除1名

| 月日   | 出席数 | 欠席 | 補充 | 出席率    |
|------|-----|----|----|--------|
| 1/24 | 35名 | 8名 | —  | 81.40% |
| 1/10 | 36名 | 7名 | 1名 | 86.05% |

## ■ メークアップ

榎本(1/9 ワールド大阪ロータリーEクラブ)

## ■ ニコニコ箱

- ・根尾幹事、本日は宜しく御願い致します(渡辺)
- ・本日卓話担当となります。よろしくお願い致します(根尾)
- ・本日 根尾幹事様、卓話よろしくお願い致します(中田)
- ・誕生日祝いありがとうございました(藤野)
- ・早退のおわび(今井(克))
- ・早退のお詫び(松内)

|         |          |
|---------|----------|
| ニコニコ箱合計 | 18,000円  |
| 累計      | 497,000円 |

## ■ お誕生日



藤野 修次 会員(29日)

川崎 久典 会員(29日)

## 先週のプログラム



卓話 根尾 玲子 会員

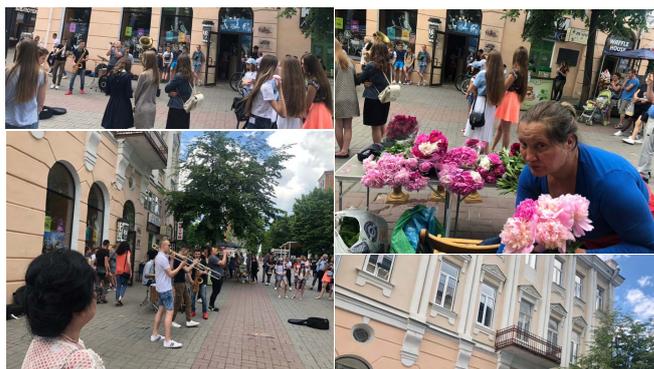


2019年、  
日本ウクライナ文化交流協会による文化交流の目的での視察に参加。  
ロシア侵攻前の綺麗な街並みに感動しました。

今回は、同協会より2022年より  
ロシア侵攻が始まった、  
現在のウクライナの状況について  
写真を通じてお伝えします。



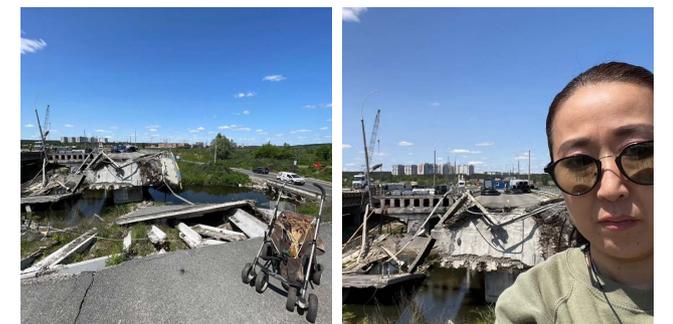
2019



2023



地図を頼りに向かってくる  
ロシア軍に方向を知られないよう  
剥がされている様子。



カモフラージュネット



2022

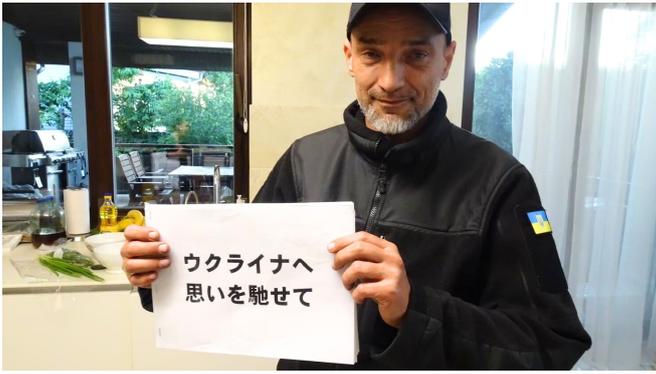


亡くなった方の掲示板



リヴィウ工科大学 講演会

“君死にたまふことなかれ”



## 小学校へパソコンの寄付

2024

